中距離エースピジョンの最高賞

令和7年度 会長賞全国1位

全国1位

24LK03587
“雅ポルシェ・マカンボーイ”
PB ♂ 栁田雅幸鳩舎 作翔

25年千葉東連盟Rg　5,108羽中総合 7位 【入賞率:0.00137】
地区N 4,247羽中総合18位 【入賞率:0.00424】

合計入賞率 0.00561



生まれ

- 生年月日 …… 24年6月4日
- 順番 …… 3番仔

鳩体

- 大きさ……中
- 体型……普通
- 主翼の形状…キレあり
- 腰の厚み…普通
- 筋肉……普通
- ベスト時の重さ…軽い
- 目……銀
- 重心…後ろ
- 性格……おとなしい

作出の意図

- 距離適性 …700K
- 展開 ……分速1200～1300m台
- タイプ ……未回答

＊25年シルバーエクセレントピジョン

- DV1009-22-169　PBW　エクスクリシヴ・ピジョン 作
  - B21-4153011　PBW　PIPAエリートセンター 作
    異父兄弟／22年オリンピアード長距離部門世界4位他
    - **“ポルシェ911”** B14-2230911　B
      15年KBDB超中距離ナショナルAP賞5位
      “ワコ・フレディ”(**“オリンピック・ワコ”**の直仔×**“ニューフレディ”**の娘)×
      “リーヴ”(**“グラディエーター”**の娘)
    - B16-4129522　PIPAエリートセンター 作
      全兄／**“ポルシェ911”(上記)**
  - B21-4153368　PIPAエリートセンター 作
    異父兄弟／20年KBDB長距離ナショナルAP賞10位
    - **“マカン112”** B16-4129112　PIPAエリートセンター 作
      17年PIPAランキング長距離3レース一歳鳩部門8位
      全兄／**“ポルシェ911”(上記)**
    - B16-6033820　PIPAエリートセンター 作
      “ルグ”(アルジェントN12,447羽中優勝)×
      “ジャスト・ウェイト”(アルジェントンN16,363羽中優勝／**“レーウ”**全妹の孫)
- “織姫” 19LK20376　B　古西正二 作　栁田鳩舎種鳩
  - “カウ・ファイター” B11-6332537　B　ヘルマンス&フクストラ 作
    - NL04-1098515　CCアイントホーフェン中距離CH賞1位
      “ヤールリングドンダースティーン”(**“カニバール”**の孫)×
      “ヤンセンドイヴィン”(“グーデ・カポットホルストビーン”孫)
    - **“カウガール”** B09-6323201　B　リック・ヘルマンス 使翔
      オリンピアード一歳鳩部門ベルギー1位
      ブールジュN成鳩部門優勝、アルジェントンN8位
      父／**“フィーネケ5000”**の直仔×**“レーウ”**の全妹
  - **“スーパーガール”** 17LK02156　B　古西 作翔
    18年日本AP賞全国2位
    “ハリー”(WHZB長距離ナショナルAP賞1位)の異母弟×
    “カウガール”(上記)の娘

令和7年度　会長賞全国１位　栁田雅幸鳩舎(北総連合会)

の作翔者・東連盟・北総連合会）

ストが中距離レースの最高賞を獲得――！

象に競われる「会長賞」。13年に設立された「全国1位」は実力最優先のエースピジョンタイトルであるため、中距離レー度は6月30日（＊全国1位の有資格日）までに58羽が申請。その頂点には、今年日本最優秀鳩舎賞に輝いた栁田雅幸鳩舎た。同鳩舎は関東三大長距離レースのスペシャリストとして有名だが、現在は中距離レースをメインに切り替えており、ころ。歴代の同賞を多数輩出してきたファンダイクの“カニバール”、ただいま世界鳩界を席巻している“ポルシェ911”血だけで構成されており、まさに「鳩レース＝血統」――ブラッドスポーツの申し子であった。

千葉東連盟初の会長賞全国1位！

78年、笹川良一氏が協会会長に就任したことを機に「笹川名鳩賞」が設立された。同氏の勇退に伴い、名称は「会長賞」に変更され、現在に至る。春シーズンのRgと地区Nの2レースを対象とし、当初は順位の合計で評価されていたが、14年に入賞率制度に変更。授賞範囲は各連盟の1位とされていたが、13年に「全国1位」が新設されたことで、名実ともに日本一の中距離鳩を決めるタイトルとなった。

令和7年度は全国で述べ約11万羽がこの賞レースに参加し、58連盟が会長賞を申請。全国1位に輝いたのは、**合計入賞率「0.00561」**を記録した、**栁田雅幸鳩舎（北総）**作翔の**「24LK03587」**だ。なお千葉東連盟から会長賞の頂点が誕生したのは史上初。前年の日本AP賞全国1位然り（＊史上初千葉東連盟が受賞）、同連盟の勢いを物語っていよう。

エポックメーカーとなるこの1羽は、会長賞の対象レースに加え、秋のRgでも3％台の入賞率をマークしており、シルバーエクセレントピジョンに難なく認定。これまでの全国1位鳩と同様、中距離レースに特化したスペシャリストといえる。

日欧が誇る中距離ナショナルAPの血だけで構成

血統面では、歴代でも屈指の因果関係の強い構成といっても過言ではない。ほぼ毎年会長賞全国1位を輩出する**“カニバール（96年KBDB中距離ナショナルAP賞1位）”**をはじめ、**“フィーネケ50（99年オリンピアード代表鳩）”**、**11年のポズナン・オリンピアード代表鳩であり、同年のブールジュN優勝鳩“カウガール”**他、**“ニューフレディ（10年KBDB超中距離ナショナルAP賞1位）”**、**“オリンピック・ワコ（11年ポズナン・オリンピアード代表鳩）”**、**“グラディエーター（05年オリンピアード代表鳩）”**らを基に構成される、PIPAエリートセンターが誇る黄金配合（“ワコ・フレディ”

歴代会長賞全国1位受賞鳩及び受賞者一覧

年度	受賞鳩	羽色	性別	受賞者	合計入賞率
令和6年 2024年	22LC05247 “セントトーマス・フレンドシップ”	BC	♀	ピグマリオンロフト (平成千葉・常総中央連合会)	0.00281
令和5年 2023年	22MB06901 “スペシャル・ブルースカイ・レディー”	BCW	♀	ミヤモトレーシング (茨城・茨城東連合会)	0.00414
令和4年 2022年	21HF03658 “エクセレントレディ号”	BC	♀	砂岡正美鳩舎 (東坂東・栃南連合会)	0.00479
令和3年 2021年	19XA13453 “Ryôga453”	BC	♂	住谷勝三鳩舎 (ニュー近畿・豊中連合会)	0.00518
令和2年 2020年	―― コロナ禍のため授賞なし ――				
令和元年 2019年	18KA10144 “令和ストロング号”	BC	♂	船川勝信鳩舎 (埼玉・埼玉連合会)	0.00460
平成30年 2018年	17LB04520 “キンバリー”	B	♀	日暮義一鳩舎 (千葉・房総連合会)	0.00321
平成29年 2017年	16HS00121 “石狩マスト号”	B	♀	原田　弘鳩舎 (つくばね・常陸石岡連合会)	0.00180
平成28年 2016年	14MK04520 “パーフェクトナショナル”	BC	♀	原　正次鳩舎 (東京多摩・東京湖南連合会)	0.00343
平成27年 2015年	14HF04926	B	♂	足澤秀昭鳩舎 (東坂東・宇都宮連合会)	0.00209
平成26年 2014年	13HF10148	B	♀	釜井盛司鳩舎 (東坂東・宇都宮連合会)	0.00189
平成25年 2013年	12LB01045 “アイアンレディ”	B	♀	日暮義一鳩舎 (千葉・房総連合会)	得点2

＊14年度より完全入賞率制を導入

令和7年度 会長賞全国1位 柳田雅幸鳩舎（千葉

関東三大長距離レースのスペシャリ



作翔者・柳田雅幸鳩舎（北総）のプロフィール

■鳩歴／―年　■レース歴／52年
■鳩舎規模／10坪50羽・６坪130羽
■主力系統／雅一族（ファンブリアーナ系）
■代表翔歴／日本最優秀鳩舎賞、全日本ゼネラルＣＨ賞、東日本稚内GN、地区Ｎ各総合優勝、東日本CH総合シングル４回、ジャパンカップ総合8位

Rgと地区Nの春の中距離2レースを対スの最高賞として君臨している。令和7年作翔（北総）の「24LK03587」が選出され全国1位鳩はその象徴的存在といったといった然るべきカテゴリーの超銘鳩の

×〝リーヴ〟）の直仔2羽――**〝ポルシェ911〟と〝マカン112〟（＊2羽とも全国1位鳩の血統参照）**、さらに**日本ＡＰ賞全国2位の〝スーパーガール〟**と、父方・母方の祖父母4ラインすべてに然るべき血がダイレクトに注入されている。

父親は前述のゴールデンペアの3重近親交配、母親は〝カウガール〟の「直仔×孫」となっており、いわばメンデルの法則でいう「一代雑種」に該当する。さらに血統をたどると、父方は〝ジャスト・ウェイト〟、母方は〝カウガール〟を経て、マルセル・ヴォーターズのこれまたＡＰ〝**レーウ（04年ＫＢＤＢ超中距離ナショナルＡＰ賞8位）**〟一族による3重近親交配となっている。

日本一二冠&スーパー認定！スタイル変更で手にした〝全盛〟

作翔者・柳田鳩舎は、02年の東日本稚内ＧＮ総合優勝を含め、関東三大長距離レースすべてでベストテン入りを果たした実力者として知られる。会長賞そのものの受賞が自身にとって初であることからも、今回の成果には驚きを禁じ得ないが、本人や彼を知る鳩友たちにとっては「当然」といったところかもしれない。同鳩舎は、仕事が落ち着いたことを契機に中距離レースへとシフトしていたからだ。しかもマルク・ポーリン、ファンデヒーデ、ジノ・クリケといったヨーロッパの最新飛び筋を次々と導入。会長賞全国1位の両親もその過程で手に入れていた。

うち母親である古西正二氏作の〝織姫〟は、他にも多数の活躍鳩を輩出しており、新生・柳田鳩舎の源鳩といえる存在。父親は前述のファンデヒーデ繋がり（＊サブロン〝ド・リモージュ〟の血）で、23年に導入されたばかりだが、すでに作出1年目（24年）でＲｇ総合5位、桜花賞総合12位の実績を挙げており、配合の妙も含めて期待以上の成果を見せている。

種鳩の大幅な入れ替えによって現在、関東三大長距離レース用に構築されたファンブリアーナ系の本筋〝雅一族〟は、全体の2割にも満たない。それにもかかわらず、活躍の場は望外にもオールラウンドに広がり、昨年は「日本優秀鳩舎賞」、そして今年は会長賞全国1位とその全兄弟の活躍により、日本一――「日本最優秀鳩舎賞」に選出。さらに、至高のレース鳩の称号「スーパーエクセレントピジョン」の認定も受け、まさにキャリアハイの1年となった。

――会長賞全国1位鳩は柳田鳩舎の〝新生〟と〝全盛〟を象徴する1羽となったことであろう。

【各連盟の受賞鳩の発表は32頁～】